

性的少数者に関するアンケート結果の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

長崎県内における性的少数者の方を取り巻く課題や実態を把握し、今後の施策を推進していくうえでの基礎資料とする。

2. 調査対象者

長崎県内に居住している方または居住経験のある方

3. 調査期間

令和元年6月24日～令和元年8月10日

4. 調査方法

(1) 長崎県のホームページ上にアンケートWEBページを開設して調査を行った(質問32項目)。

(2) 本調査は、回答者を無作為に選び回答を依頼したのではなく、県ホームページへの掲載やポスター掲示、チラシ配置等による周知のほか、調査委託先(性的少数者支援団体)の各種活動への参加者やその知人の方へ周知を行い、調査対象者であればどなたでも回答できるものとした。

(3) このため、Ⅱの1の(6)で示している各セクシュアリティ分類の回答者割合並びに各質問の回答割合は、県民全体の傾向と捉えることはできないことに留意する必要がある。

5. 回答者数

688人

6. 調査主体

長崎県(県民生活部人権・同和対策課)

7. 調査委託先

Take it! 虹(ていく・いっと・にいじい)

II 結果の概要

1. 本書及び結果報告書の見方・留意点

- (1) 表及びグラフの「見出し」は、質問の内容に沿ってできるだけ簡略化した。
- (2) 割合は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、割合の合計が100%にならない場合がある。
また、回答数が少数の場合に0.0%となる場合がある。
- (3) 各質問において、質問対象者数(実数)を「n」として掲載した。
- (4) 「複数回答可」としている質問においては、各選択肢の回答数を「n」により割り戻しているため、割合の合計が100%を上回る場合がある。
- (5) 用語解説

性的少数者	LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)などの総称
セクシュアリティ	性のあり方のこと。出生時の戸籍上の性別(からだの性)や性自認(こころの性)、性的指向(恋愛対象)に関する意識や行動。
レズビアン	性自認(こころの性)が女性で、性的指向(恋愛対象)も女性の人
ゲイ	性自認(こころの性)が男性で、性的指向(恋愛対象)も男性の人
バイセクシュアル	性的指向(恋愛対象)が女性にも男性にも向いている人
トランスジェンダー	出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致しない人又は違和感を持つ人
Xジェンダー	男女の性を明確に自認していない人(両性、中性、無性、不定性の人など)
パンセクシュアル	性的指向(恋愛対象)が女性または男性、あるいはXジェンダーなど相手の性別を問わない人
Aセクシュアル	恋愛感情を抱かない人
アライ	性的少数者当事者ではないが、性的少数者への支援の気持ちを持つ人の総称
カミングアウト	自分自身の性のあり方や思いなどを表明すること
パートナーシップ制度	一方又は双方が性的少数者である二人が、互いを人生のパートナーとして、相互の協力により、継続的に共同生活を行う関係であることを、自治体が証明書を交付、又はそのような内容の宣誓書の受領証を交付するもの。但し、婚姻のような法的効力はない。

(6) 問4～問6の回答によって、セクシュアリティを次のとおり分類し、表及びグラフ等に表している。

本調査回答者のセクシュアリティ分類					
問4: 出生時の戸籍上の性別	問5: 性自認	問6: 性的指向	セクシュアリティ分類	回答者数	割合(%)
1. 女性	1. 女性	1. 異性愛	CH	270	39.2
		2. 同性愛	非異性愛者(LGB 他)	23	3.3
		3. 両性愛/全性愛	非異性愛者(LGB 他)	44	6.4
		4. 無性愛、5. わからない、6. その他	非異性愛者(LGB 他)	42	6.1
	2. 男性		T	15	2.2
	3. Xジェンダー、 4. わからない、5. その他		T	43	6.3
2. 男性	1. 女性		T	15	2.2
	2. 男性	1. 異性愛	CH	165	24.0
		2. 同性愛	非異性愛者(LGB 他)	35	5.1
		3. 両性愛/全性愛	非異性愛者(LGB 他)	18	2.6
		4. 無性愛、5. わからない、6. その他	非異性愛者(LGB 他)	6	0.9
3. Xジェンダー、 4. わからない、5. その他		T	12	1.7	
合計				688	100.0

※1 / T :トランスジェンダー

非異性愛者: 出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致している人で、かつ、性的指向において、同性愛や両性愛、全性愛、無性愛、わからない、その他を選択された方の総称

CH : 出生時の戸籍上の性別(からだの性)と性自認(こころの性)が一致している人(Cisgender: シスジェンダー)で、かつ、性的指向において、異性愛を選択された方(Heterosexual: ヘテロセクシュアル)の略称

*この報告書において、「T及び非異性愛者」を性的少数者又は当事者としている。

※2 / Tの中には、L(レズビアン)、G(ゲイ)、B(バイセクシュアル)などの性的指向の方もいるが、この調査では、そのような方も含めTとして分類した。
なお、本調査におけるTの方の性的指向は、「問6」に詳細を掲載

※3 / この調査は、回答される方を無作為で選んだものではなく、性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方などを中心にアンケート実施の周知を行ったことから、セクシュアリティ分類の各割合が、県民全体の傾向と捉えることはできない。

2. 回答者の属性

(1) 年代

問 1. あなたの年齢を教えてください。(平成 31 年 4 月 1 日現在)【回答必須】

回答者の年代								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10代	15	17.6	34	20.2	77	17.7	126	18.3
20代	37	43.5	71	42.3	114	26.2	222	32.3
30代	16	18.8	26	15.5	79	18.2	121	17.6
40代	11	12.9	24	14.3	70	16.1	105	15.3
50代	5	5.9	5	3.0	80	18.4	90	13.1
60代	0	0.0	8	4.8	13	3.0	21	3.1
70代	1	1.2	0	0.0	2	0.5	3	0.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

(2) 居住地

問 2. あなたが現在住んでいる地域はどこですか。【回答必須】

現在の居住地								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 県南	38	44.7	93	55.4	292	67.1	423	61.5
2. 県央	19	22.4	35	20.8	52	12.0	106	15.4
3. 県北	10	11.8	16	9.5	59	13.6	85	12.4
4. 島原	3	3.5	3	1.8	8	1.8	14	2.0
5. 対馬	0	0.0	1	0.6	1	0.2	2	0.3
6. 壱岐	1	1.2	0	0.0	1	0.2	2	0.3
7. 五島	1	1.2	0	0.0	4	0.9	5	0.7
8. 県外	13	15.3	20	11.9	18	4.1	51	7.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

【選択肢の地域区分】県南：長崎市・西海市・西彼杵郡/県央：諫早市・大村市/県北：佐世保市・平戸市・松浦市・東彼杵郡・北松浦郡/島原：島原市・雲仙市・南島原市/対馬：対馬市/壱岐：壱岐市/五島：五島市・新上五島町

- ・本調査の実施にあたっては、県ホームページへの掲載や県内公共施設へのポスター掲示、周知カードの配置等による周知以外に、主に長崎市やその周辺地域を拠点とする性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方へ周知を図ったことから、県南地域の回答率が非常に高くなったと思われる。
- ・上記のことから、居住地の割合に大きな差はあるものの、県内全てのどの地域にも性的少数者の方が居住されている。

(3) 出生時の戸籍上の性別

問 4.あなたの出生時の戸籍や出生届に記載された性別を教えてください。【回答必須】

出生時の戸籍上の性別		
	合計	
	回答数	割合
1.女性	437	63.5
2.男性	251	36.5
合計	688	100.0
n	688	

(4) 性自認

問 5.あなたの自認している性別を教えてください。【回答必須】

性自認		
	合計	
	回答数	割合
1.女性	394	57.3
2.男性	239	34.7
3.Xジェンダー	38	5.5
4.わからない	15	2.2
5.その他	2	0.3
合計	688	100.0
n	688	

(5) 性的指向

問 6.あなたの恋愛や性愛の傾向を教えてください。【回答必須】

性的指向								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.異性愛(ヘテロセクシュアル)	21	24.7	0	0.0	435	100.0	456	66.3
2.同性愛(ゲイ・レズビアン)	12	14.1	58	34.5	0	0.0	70	10.2
3.両性愛/全性愛(バイセクシュアル/パンセクシュアル)	34	40.0	58	34.5	0	0.0	92	13.4
4.無性愛(アセクシュアル・エイセクシュアル)<恋愛感情がわからない>	6	7.1	15	8.9	0	0.0	21	3.1
5.わからない	8	9.4	28	16.7	0	0.0	36	5.2
6.その他	4	4.7	9	5.4	0	0.0	13	1.9
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

・本調査の報告書では、Tを性的指向では細分化せずに全てTとして分類しているが、Tにおいても性的指向に多様性がみられる。また、非異性愛者の中にも多様性があることがわかる。

3. 回答者の生活や心身の健康状況

(1) 経済的な生活状況

問 8. あなたの生活の状況は、経済的に次のどれにあてはまると思いますか。

現在の経済的な生活状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. とても安定している	14	16.5	28	16.7	67	15.4	109	15.8
2. 特に生活上困ることはない	34	40.0	74	44.0	245	56.3	353	51.3
3. なんとか生活できている	23	27.1	48	28.6	101	23.2	172	25.0
4. 生活が苦しい	12	14.1	13	7.7	19	4.4	44	6.4
5. 生活が苦しく、生活保護などの公的サービスを受けている	2	2.4	3	1.8	2	0.5	7	1.0
無回答	0	0.0	2	1.2	1	0.2	3	0.4
合計	85	100.0	168	100.0	435	100.0	688	100.0
n	85		168		435		688	

(2) 健康上の問題

問 9. あなたは、現在も含めこれまでに、病気や健康上の問題などを抱えたことがありますか。【複数回答可】

これまでの健康上の問題								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 発達障害(自閉症スペクトラム・ADHD・学習障害など)	7	8.2	9	5.4	10	2.3	26	3.8
2. うつ病/躁うつ病	21	24.7	39	23.2	36	8.3	96	14.0
3. 性感染症	0	0.0	5	3.0	9	2.1	14	2.0
4. HIV/AIDS(エイズ)	1	1.2	1	0.6	0	0.0	2	0.3
5. 依存症(アルコール・ギャンブル・薬物など)	3	3.5	3	1.8	9	2.1	15	2.2
6. 特に病気や健康上の問題は抱えていない	40	47.1	103	61.3	294	67.6	437	63.5
7. その他	23	27.1	31	18.5	64	14.7	118	17.2
無回答	4	4.7	3	1.8	30	6.9	37	5.4
合計	99	-	194	-	452	-	745	-
n	85		168		435		688	

・「6. 特に病気や健康上の問題は抱えていない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち42人(49.4%)、非異性愛者が168人のうち63人(37.5%)、CHが435人のうち112人(25.7%)であった。

(3) メンタルヘルスなどに関する状況

問 10. 現在も含めこれまでの、あなた自身について回答してください。【複数回答可】

メンタルヘルスなどに関する状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自分を大切に思えない	26	30.6	50	29.8	48	11.0	124	18.0
2.自分を受け止めてくれる人はいないように感じる	34	40.0	49	29.2	48	11.0	131	19.0
3.将来に希望を持つことができない	40	47.1	74	44.0	65	14.9	179	26.0
4.死んでしまいたいと思ったことがある	52	61.2	87	51.8	118	27.1	257	37.4
5.不登校経験がある	26	30.6	25	14.9	33	7.6	84	12.2
6.自分をわざと傷つけた(自傷行為)ことがある	32	37.6	32	19.0	26	6.0	90	13.1
7.自殺未遂をしたことがある	24	28.2	26	15.5	16	3.7	66	9.6
8.上記のような経験はない	13	15.3	47	28.0	258	59.3	318	46.2
無回答	1	1.2	2	1.2	8	1.8	11	1.6
合計	248	-	392	-	620	-	1,260	-
n	85		168		435		688	

・T、非異性愛者においては、「4.死んでしまいたいと思ったことがある」の割合が最も高く、CHにおいては、「8.上記のような経験はない」が最も多い。

4. 性的少数者にかかる取り組みに関すること

(1) 県内の取り組みの認知度

問12. 長崎県内で最近行われている性的少数者に関する次の取り組みで、知っているものはありますか。【複数回答可】

性的少数者に関する県内取り組みの認知度								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.LGBT 電話相談デー	8	9.4	22	13.1	46	10.6	76	11.0
2.LGBT フォーラム	14	16.5	31	18.5	113	26.0	158	23.0
3.性の多様性ロゴマークデザイン募集	8	9.4	10	6.0	33	7.6	51	7.4
4.支援団体主催の交流会	23	27.1	43	25.6	88	20.2	154	22.4
5.上記の取り組みを知らない	48	56.5	103	61.3	255	58.6	406	59.0
6.その他	2	2.4	3	1.8	6	1.4	11	1.6
無回答	1	1.2	3	1.8	7	1.6	11	1.6
合計	104	-	215	-	548	-	867	-
n	85		168		435		688	

〔補足〕1.LGBT 電話相談デー：長崎県が開設（毎月第3土曜日 9時30分～13時 TEL090-5939-5095）2.LGBT フォーラム：長崎県が平成30年11月21日に、長崎大学中部講堂で開催 3.性の多様性ロゴマークデザイン募集：長崎県が平成30年7～9月に中・高・大学生等を対象に募集、同年11月に優秀作品発表

・全体を通して、取り組みの認知度は低い状況にある。

(2) 県内学校での学びの経験

問13. 県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者について学びましたか。【複数回答可】

県内学校での性的少数者についての学びの経験																
【年代別】	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.学ばなかった	42	38.2	96	47.5	88	79.3	80	88.9	71	91.0	11	73.3	3	100.0	391	64.2
2.自ら調べた	33	30.0	87	43.1	30	27.0	16	17.8	7	9.0	3	20.0	1	33.3	177	29.1
3.当事者の知人がいて、話を聞いた	8	7.3	33	16.3	13	11.7	6	6.7	2	2.6	2	13.3	0	0.0	64	10.5
4.授業で学んだ	32	29.1	52	25.7	6	5.4	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	91	14.9
5.講演会などで当事者の話を聞いた	14	12.7	18	8.9	3	2.7	1	1.1	5	6.4	2	13.3	0	0.0	43	7.1
6.校内にポスターが貼ってあった	10	9.1	12	5.9	1	0.9	1	1.1	1	1.3	0	0.0	0	0.0	25	4.1
7.ホームルームなどで話題に出た	3	2.7	1	0.5	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	5	0.8
8.その他	3	2.7	7	3.5	9	8.1	4	4.4	3	3.8	1	6.7	1	33.3	28	4.6
合計	145	-	306	-	150	-	109	-	90	-	19	-	5	-	824	-
n	110		202		111		90		78		15		3		609	

・「4.授業で学んだ」と回答した方は、10代で29.1%、20代で25.7%であり、30代、40代では10%を割り、50代以上は0%である。

(3) 県内学校における取り組み状況

問14. 県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者に関する取り組みはありましたか。【複数回答可】

県内の学校における性的少数者に関する取り組み状況																
	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.わからない	64	58.2	74	36.6	27	24.3	17	18.9	10	12.8	3	20.0	1	33.3	196	32.2
2.取り組みはなかった/ない	28	25.5	83	41.1	79	71.2	67	74.4	63	80.8	10	66.7	1	33.3	331	54.4
3.性的少数者に関する授業	12	10.9	22	10.9	3	2.7	0	0.0	1	1.3	1	6.7	0	0.0	39	6.4
4.当事者の話を聞く機会	5	4.5	8	4.0	1	0.9	0	0.0	3	3.8	0	0.0	0	0.0	17	2.8
5.相談窓口の設置	7	6.4	9	4.5	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	17	2.8
6.啓発や相談窓口のポスターの掲示	4	3.6	7	3.5	2	1.8	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	14	2.3
7.性自認に配慮した更衣室の利用	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.3
8.呼称は「ちゃん」や「くん」ではなく、「さん」呼び	4	3.6	14	6.9	2	1.8	3	3.3	5	6.4	2	13.3	0	0.0	30	4.9
9.通称名(希望する名前)の利用	1	0.9	2	1.0	0	0.0	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	4	0.7
10.制服の自由選択	2	1.8	2	1.0	0	0.0	1	1.1	1	1.3	0	0.0	0	0.0	6	1.0
11.職員用トイレや授業中のトイレ利用	0	0.0	4	2.0	0	0.0	1	1.1	2	2.6	0	0.0	0	0.0	7	1.1
12.その他	2	1.8	1	0.5	5	4.5	3	3.3	3	3.8	1	6.7	2	66.7	17	2.8
合計	130	-	226	-	119	-	93	-	91	-	17	-	4	-	680	-
n	110		202		111		90		78		15		3		609	

(4) 県内学校におけるサポート利用状況

問 15. 県内の学校に通われた又は通われている方にお尋ねします。県内の学校で性的少数者に関するサポートを利用したことはありますか。

【複数回答可】

県内の学校における性的少数者に関するサポート利用状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.サポートがあったのかわからない	35	44.3	77	51.7	240	65.0	352	59.0
2.サポートはなかった	37	46.8	65	43.6	113	30.6	215	36.0
3.サポートはあったが、どれも利用しなかった	3	3.8	6	4.0	12	3.3	21	3.5
4.相談窓口	0	0.0	1	0.7	0	0.0	1	0.2
5.性自認に配慮した更衣室の利用	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.2
6.通称名(希望する名前)の利用	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.制服の自由選択	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8.職員用トイレや授業中のトイレ利用	1	1.3	0	0.0	4	1.1	5	0.8
9.その他	5	6.3	5	3.4	7	1.9	17	2.8
合計	81	-	154	-	377	-	612	-
n	79		149		369		597	

(5) 県内職場における取り組み状況

問 17.現在の職場が県内の方にお尋ねします。あなたの職場では、性的少数者に関する取り組みはありますか。【複数回答可】

県内の職場における性的少数者に関する取り組み状況		
	合計	
	回答数	割合
1.わからない	160	35.2
2.取り組みはない	186	40.9
3.性的少数者に関する研修	78	17.1
4.就業規則等での差別禁止の明文化	12	2.6
5.相談窓口の設置	39	8.6
6.通称名(希望する名前)の利用	11	2.4
7.性自認に配慮した更衣室・トイレの利用	11	2.4
8.同性パートナーの配偶者扱い	2	0.4
9.性的少数者を想定したサービスや商品の提供	4	0.9
10.その他	27	5.9
合計	530	-
n	455	

(6) 県内職場におけるサポート利用状況

問 18.現在の職場が県内の方にお尋ねします。あなたは職場で、性的少数者に関するサポートを利用したことはありますか。【複数回答可】

県内の職場における性的少数者に関するサポート利用状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. サポートがあるのかわからない	14	27.5	38	41.8	147	48.7	199	44.8
2. サポートはない	29	56.9	44	48.4	101	33.4	174	39.2
3. サポートはあるが、どれも利用したことはない	5	9.8	5	5.5	44	14.6	54	12.2
4. 通称名(希望する名前)の利用	1	2.0	1	1.1	1	0.3	3	0.7
5. 相談窓口	1	2.0	2	2.2	3	1.0	6	1.4
6. 同性パートナーの配偶者扱い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 性自認に配慮した更衣室・トイレ利用	0	0.0	0	0.0	2	0.7	2	0.5
8. その他	3	5.9	6	6.6	11	3.6	20	4.5
合計	53	-	96	-	309	-	458	-
n	51		91		302		444	

5. アライに関すること

(1) アライであることの表明状況

問 20. アライ(当事者ではないが支援の気持ちを持つ人)の方へお尋ねします。あなたは、自分自身の支援の気持ちを表明していますか。表明の範囲を教えてください。【複数回答可】

アライであることの表明状況								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 誰にも表明していない	6	30.0	10	28.6	95	40.8	111	38.5
2. 友人(当事者)	4	20.0	7	20.0	40	17.2	51	17.7
3. 友人(当事者ではない)	3	15.0	12	34.3	45	19.3	60	20.8
4. 家族(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども)	3	15.0	3	8.6	45	19.3	51	17.7
5. 親戚(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	1	5.0	1	2.9	7	3.0	9	3.1
6. 学校関係者(担任・養護教諭・スクールカウンセラーなど)	0	0.0	1	2.9	12	5.2	13	4.5
7. 職場関係者(同僚・上司など)	3	15.0	3	8.6	31	13.3	37	12.8
8. 性的少数者の支援団体	1	5.0	1	2.9	20	8.6	22	7.6
9. 特に隠していない・公言している	5	25.0	11	31.4	68	29.2	84	29.2
10. その他	3	15.0	1	2.9	9	3.9	13	4.5
合計	29	-	50	-	372	-	451	-
n	20		35		233		288	

・アライへの質問に対し、当事者の方も回答されているが、これは、当事者であると認識されていない方や、当事者と認識していて他の当事者への支援の気持ちを持つ方が回答されていると考えられる。

6. 性的少数者自身に関すること

(1) カミングアウト状況

問 22. 当事者の方へお尋ねします。あなたは周囲に、自分自身が性的少数者であることをカミングアウトしていますか。カミングアウトの範囲を教えてください。【複数回答可】

性的少数者であることのカミングアウト状況						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 誰にもカミングアウトしていない	16	18.8	30	17.9	46	18.2
2. 友人(当事者)	36	42.4	56	33.3	92	36.4
3. 友人(当事者ではない)	47	55.3	69	41.1	116	45.8
4. 家族(親・兄弟姉妹・配偶者／パートナー・子ども)	36	42.4	41	24.4	77	30.4
5. 親戚(親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	6	7.1	8	4.8	14	5.5
6. 医療・援助職関係者(医師・カウンセラーなど)	12	14.1	7	4.2	19	7.5
7. 学校関係者(担任・養護教諭・スクールカウンセラーなど)	3	3.5	2	1.2	5	2.0
8. 職場関係者(同僚・上司など)	16	18.8	15	8.9	31	12.3
9. 性的少数者の支援団体	14	16.5	12	7.1	26	10.3
10. 特に隠していない・公言している	6	7.1	7	4.2	13	5.1
11. その他	4	4.7	7	4.2	11	4.3
無回答	12	14.1	42	25.0	54	21.3
合計	208	-	296	-	504	-
n	85		168		253	

・全体では、「1. 誰にもカミングアウトしていない」と回答した方の割合は 18.2%と低いように見えるが、これは、性的少数者支援団体の各種活動への参加者やその知人の方などを中心にアンケート実施の周知を行ったため、カミングアウトされている回答者が多くなっていることが要因であると考えられる。

・カミングアウトしている当事者は、相手が殆ど友人や家族であり範囲が狭く、「特に隠していない・公言している」としている当事者は、5.1%と1割に満たない。

(2) カミングアウトしない理由

問 23. 問 22 で当事者であることを「1. 誰にもカミングアウトしていない」と回答された方へお尋ねします。その理由を教えてください。【複数回答可】

当事者(性的少数者)であることをカミングアウトしない理由						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 特に話す必要性を感じていない	7	43.8	18	60.0	25	54.3
2. 理解されるか不安である	10	62.5	19	63.3	29	63.0
3. 話すといじめや差別を受けそうである	6	37.5	8	26.7	14	30.4
4. どう話したらいいかわからない	7	43.8	14	46.7	21	45.7
5. その他	4	25.0	0	0.0	4	8.7
無回答	0	0.0	4	13.3	4	8.7
合計	34	-	63	-	97	-
n	16		30		46	

(3) 性的少数者であることが要因で暴力などを受けた経験

問 25. 当事者の方へお尋ねします。性的少数者であることが要因となった下記の経験はありますか。【複数回答可】

性的少数者であることが要因で暴力などを受けた経験						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.身体的な暴力を受けた	9	10.6	5	3.0	14	5.5
2.精神的な暴力を受けた	19	22.4	20	11.9	39	15.4
3.性的な暴力を受けた	8	9.4	2	1.2	10	4.0
4.異性の配偶者／パートナーからDVを受けた	1	1.2	1	0.6	2	0.8
5.同性のパートナーからDVを受けた	0	0.0	1	0.6	1	0.4
6.無視されたり仲間外れにあった	9	10.6	15	8.9	24	9.5
7.からかわれたり冗談を言われた	26	30.6	34	20.2	60	23.7
8.アウティングされた	12	14.1	16	9.5	28	11.1
9.上記のような経験はない	37	43.5	77	45.8	114	45.1
10.その他	4	4.7	6	3.6	10	4.0
無回答	12	14.1	42	25.0	54	21.3
合計	137	-	219	-	356	-
n	85		168		253	

[補足]DV(ドメスティック・バイオレンス):配偶者や恋人から受ける精神的、身体的なものなどの暴力 / アウティング:本人の許可なく、性的少数者であることを他人に暴露されること

- ・「9.上記のような経験はない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち36人(42.4%)、非異性愛者が168人のうち49人(29.2%)であった。
- ・暴力などの被害を受けた経験は、T、非異性愛者とも、「7.からかわれたり冗談を言われた」が最も多く、次いで「2.精神的な暴力を受けた」、「8.アウティングされた」の順となっている。

(4) 悩みや困りごと

問 29. 当事者の方へお尋ねします。性的少数者として自分自身が悩んでいることや困っていることはありますか。【複数回答可】

当事者(性的少数者)本人の悩みや困りごと						
	T		非異性愛者		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする	44	51.8	75	44.6	119	47.0
2. 就学・就職などの選考時に差別やハラスメントを受けたことがある	15	17.6	7	4.2	22	8.7
3. 行政窓口で性的少数者への配慮が足りない	17	20.0	26	15.5	43	17.0
4. 家族の理解が得られない	28	32.9	35	20.8	63	24.9
5. 医療・福祉面で同性パートナーの有無や性自認に沿った対応が想定されていない	23	27.1	31	18.5	54	21.3
6. 同性パートナーが遺族年金や扶養控除、手当などを受けられない	17	20.0	41	24.4	58	22.9
7. 入浴施設や更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらい	37	43.5	4	2.4	41	16.2
8. 外国籍の同性パートナーの在留資格が申請しにくい	3	3.5	6	3.6	9	3.6
9. 冠婚葬祭などへの出席を断られたことがある	3	3.5	1	0.6	4	1.6
10. 老後の生活に不安がある	27	31.8	55	32.7	82	32.4
11. 特にない	8	9.4	21	12.5	29	11.5
12. その他	10	11.8	11	6.5	21	8.3
無回答	12	14.1	45	26.8	57	22.5
合計	244	-	358	-	602	-
n	85		168		253	

- ・「11. 特にない」以外のいずれかを回答された方の実人数は、Tが85人のうち66人(77.6%)、非異性愛者が168人のうち104人(61.9%)であった。
- ・全体では、「1. 周囲で性的少数者に関する差別的な言動を見聞きする」が47.0%と最も高く、次いで「10. 老後の生活に不安がある」(32.4%)、「4. 家族の理解が得られない」(24.9%)の順となっている。

7. 地域社会に望む取り組み

問 31. 全員の方へ、今後、地域社会に望む性的少数者に関する取り組みがありましたら自由に記入してください。(自由記述)

地域社会に望む取り組み								
	T		非異性愛者		CH		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 教育・啓発	28	32.9	53	31.5	94	21.6	175	25.4
2. 婚姻における平等	14	16.5	40	23.8	16	3.7	70	10.2
3. トイレ等施設の整備・配慮	4	4.7	2	1.2	13	3.0	19	2.8
4. 制服の自由選択	2	2.4	1	0.6	6	1.4	9	1.3
5. 通称名使用、呼称等への配慮	1	1.2	2	1.2	5	1.1	8	1.2
6. 性別を記載する文書等の見直し	1	1.2	3	1.8	4	0.9	8	1.2
7. 交流や出会いの場の設定	3	3.5	6	3.6	3	0.7	12	1.7
8. 相談窓口の充実	1	1.2	4	2.4	2	0.5	7	1.0
9. その他の取り組み	5	5.9	19	11.3	26	6.0	50	7.3
10. 教育・啓発や支援は不要等	0	0.0	0	0.0	3	0.7	3	0.4
合計	59	-	130	-	172	-	361	-
n	85		168		435		688	

(注) 記述された内容の趣旨を以下の項目に分類し、集計
(1人で複数の要望もあり)

・性的少数者に関する取組要望を記述された方の実人数は、Tが85人のうち35人(41.2%)、非異性愛者が168人のうち67人(39.9%)、CHが435人のうち107人(24.6%)であった。

<取組要望の主な内容>

【1.教育・啓発】

- ・理解促進のための冊子配付
- ・ハラスメントや偏見を除くための県広報番組等での解説
- ・興味のない人を理解させる取り組み
- ・行政職員及び教職員の研修
- ・子どもの時期からの学校における教育
- ・職場での研修
- ・医療機関への周知啓発
- ・高齢者層への周知啓発

【2.婚姻における平等】

- ・長崎市のパートナーシップ制度のノウハウの県内への広まり
- ・異性カップルと同等の同性カップルへの法的支援

【3.トイレ等施設の整備・配慮】

- ・誰でも利用できるトイレの設置

【4.制服の自由選択】

- ・職場や学校での制服の自由選択

【5.通称名使用、呼称等への配慮】

- ・通称名を使用しやすい環境づくり
- ・保育所、幼稚園、学校での呼称の変更(男女で区別する「ちゃん」「くん」ではなく「さん」)

【6.性別を記載する文書等の見直し】

- ・公的な文書等における性別記載欄の必要性の見直し

【7.交流や出会いの場の設定】

- ・当事者同士がつながれる機会の創出
- ・各市町でのLGBTに関する活動や交流の場の設定

【8.相談窓口の充実】

- ・悩みなどを相談できる窓口の充実

【9.その他の取り組み】

- ・個々人の性自認によって生活に差異がないような法律や制度の整備
- ・性同一性障害への福祉的な助成金制度
- ・ジェンダーにとらわれず、個を大切にできる環境(教育現場・社会)を整える。

【10.教育・啓発や支援は不要等】

- ・現時点では支援の必要性を感じない

8. 性的少数者についての実態等に関すること

問 32. 全員の方へ、長崎県内の性的少数者の実態等に関して、何かありましたら自由に記入してください。(自由記述)

意見等	年齢	セクシュアリティ分類
義務教育内ではセクシャルマイノリティへの教育や言葉の言い回しに配慮が少なかったので当事者だと言い出しにくい、対処を得る為の行動を起こしにくい点があった。 現在高等学校に在学しているが私立高校ということもあってか小学校や中学校と比べて個々の性が大切にされていると感じる。しかし生徒間で見てみると差別的な表現、からかいをする人がいたりセクシャルマイノリティに対しての教育、考え方がまだまだ行き届いていないと感じられる。	17	非異性愛者
LGBT だけでなく、いろいろな思いや願い、考えを自由に表明でき、不利益を被らない制度的、心理的環境の整った故郷になることを切に願います。	21	CH
長崎県が、性的マイノリティを想定し、取り組みを行っているという事実にはげまされている人がたくさんいて、私もその一人です。日常生活の中で差別的な言動はまだまだあふれていますが、県として、サポートや啓発の意思表示をすることで、県内の性的マイノリティをめぐる環境の底上げを図ることができると感じています。	30	非異性愛者
想像できることは都市部以上に孤立し、緊張した状態で暮らしておられるのだと思います。私自身はこのアンケートで「アライ」という言葉を初めて知りました。知らないことが多々あることを自覚する良い機会でした。	45	T
仕事関係で LGBT の話になったとき、ある町で「ここにはいませんから」と福祉担当課の方が言われたのにはとても驚いた。その言葉には、「そういったマイナス要因の人はいません」的な意味合いを強く感じた。いないのではなく、言えないのかも。想像力を働かせてほしい。公務員は全員が研修をうけるべきだと思う。	56	CH
きちんと両性に分けられた地域社会でしか生きてこなかったもので、「別世界のこ」という認識が正直なところである。実在するのであれば、医学の進歩で元(生物学上の性別)に戻せないのかという思いもある。やっと男女平等が軌道に乗り出したのに、次は「第三、第四の性」。どう対応するのか、困ったものだと思う。	60	CH
このような調査は、非常にいいことだと思います。この課題の解決は時間がかかるので、根気強くいきたいと思います。	70	CH

◆本アンケート結果の概要は、下記ホームページからダウンロードできます。

長崎県人権・同和対策課 クリック

(<http://www.pref.nagasaki.jp/section/jinken/>)



県民生活部 人権・同和対策課

〒850-8570 長崎市尾上町3-1

TEL 095-826-2585

FAX 095-826-4874